

令和4年度
大阪市芸術活動振興事業助成金
アンケート調査
報告書

令和5年11月
大阪府市文化振興会議アーツカウンシル部会
(大阪アーツカウンシル)

調査の背景と目的

大阪市は、芸術活動の水準向上と発展を図り、市民の文化・芸術の振興を推進するために、「大阪市芸術活動振興事業助成金」を実施している。この助成金は、文化の向上と文化的創造に寄与すると認められる芸術活動を支援・助成することを目的としている。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大をはじめとする状況変化が、文化芸術活動やその関係者を取り巻く環境を大きく変化させている。このため、助成金の運用が現状に適合しているかを評価するため、アンケート調査を実施した。

調査の対象と方法

調査対象は、令和5年度の一般助成（上期）と特別助成への申請者となる。申請者には申請書と共に任意のアンケート調査票を挿入し、回答を希望する者が自由に参加できる形式を採用した。

調査期間は令和5年1月25日（水）から2月24日（金）まで、本助成金の募集期間と同時に行われた。回収された調査票は171件で、これは本助成金への申請数215件のうちの約8割を占めていることになる。

調査の運営

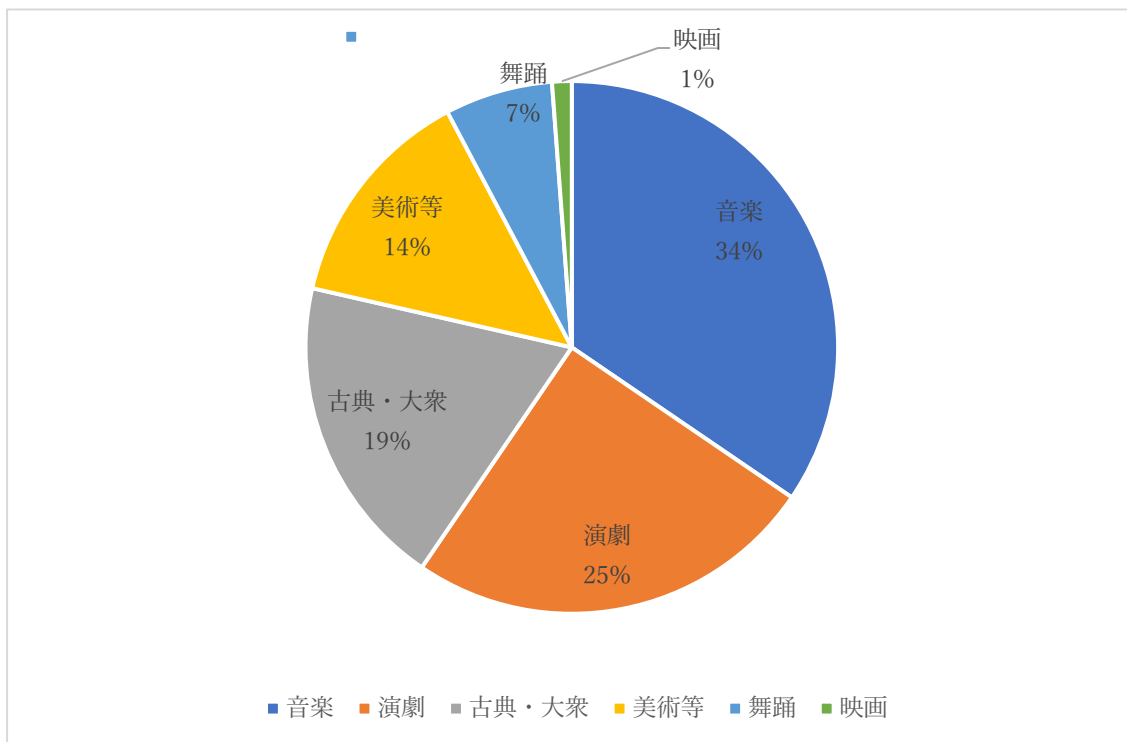
調査票の回収は本助成金の実施主体である大阪市文化課によって行われた。回収された調査票は、個人・団体名を除いて大阪アーツカウンシルに提供された。大阪アーツカウンシルは、提供された調査票に基づき本アンケート調査の集計と分析を行い、報告書を作成した。

報告書の見方

表の“n”は各設問における母数を表している。百分比（%）は、小数点以下を四捨五入して表示している。そのため、四捨五入の結果、比率の合計が100%と一致しないことがある。自由記述の回答については、誤字・脱字があると思われる箇所については軽微な修正を行っている。

集計結果

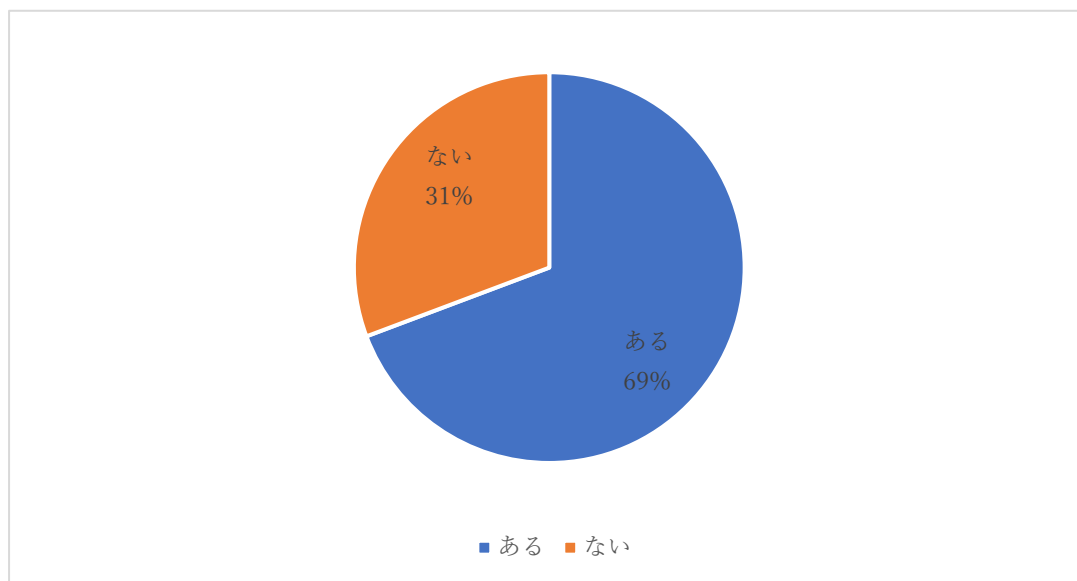
問1. 今回応募する芸術活動の分野は何ですか？ (n=168)



項目	音楽	演劇	古典・大衆	美術等	舞踊	映画	合計
件数	58	42	32	23	11	2	168

音楽分野の割合が最も高く、全体の34%となっています。続いて大きな割合を占めているのが、演劇であり25%です。古典・大衆、美術等、舞踊の割合が中程度であり、これらの分野は全体の申請者の中でそれぞれ19%、14%、7%を占めています。一方、割合が最も低いのは映画分野であり、助成金申請者の全体の1%となっています。

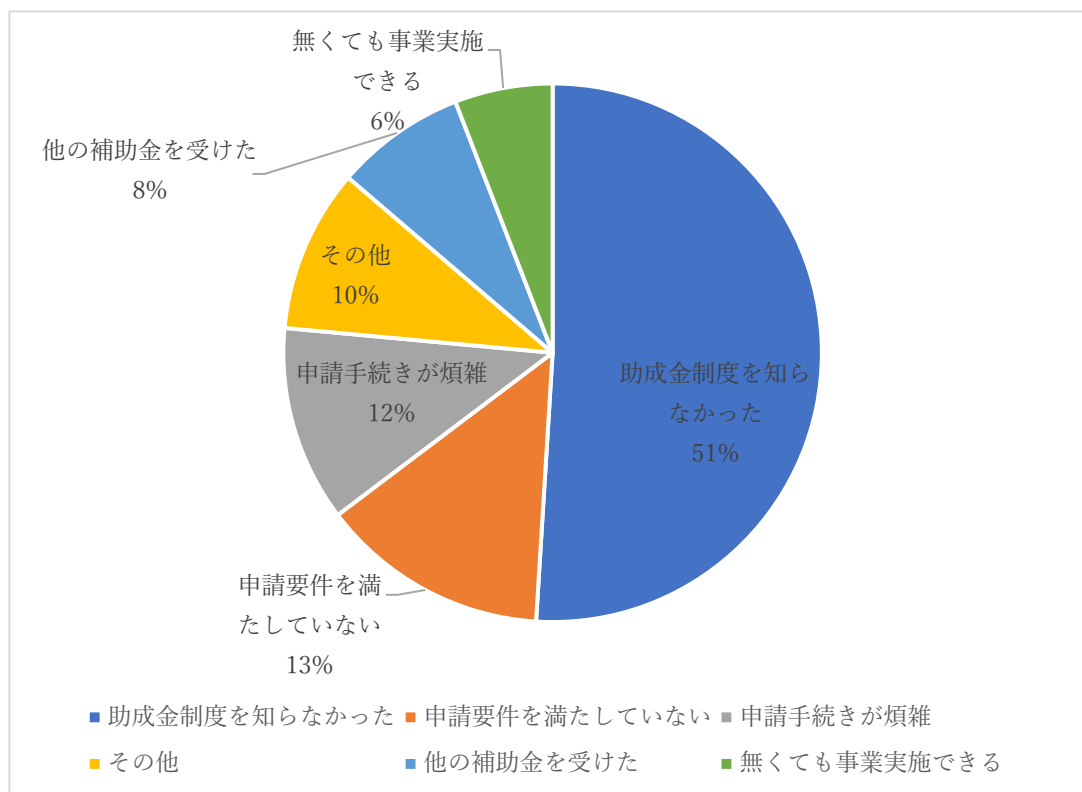
問2. 今までに助成金に申請したことはありますか？ (n=166)



項目	ある	ない	合計
件数	115	51	166

69%の申請者が過去に本助成金に申請した経験があることから、助成金を申請するのは一度限りのことではなく、継続的に活動資金として利用されています。また、新規の申請者も31%ほど存在しており、コロナ禍における数多くの支援により本助成金にたどり着いた者がいる他、新たなプロジェクトやアーティストが継続的に生まれている可能性があることを示唆しています。

問3. 今まで申請しなかったのは何故ですか？
 (問2で「ない」に回答した者のみ、n=51)



項目	件数
助成金制度を知らなかった	26
申請要件を満たしていない	7
申請手続きが煩雑	6
その他	5
他の補助金を受けた	4
無くて事業実施できる	3
合計	51

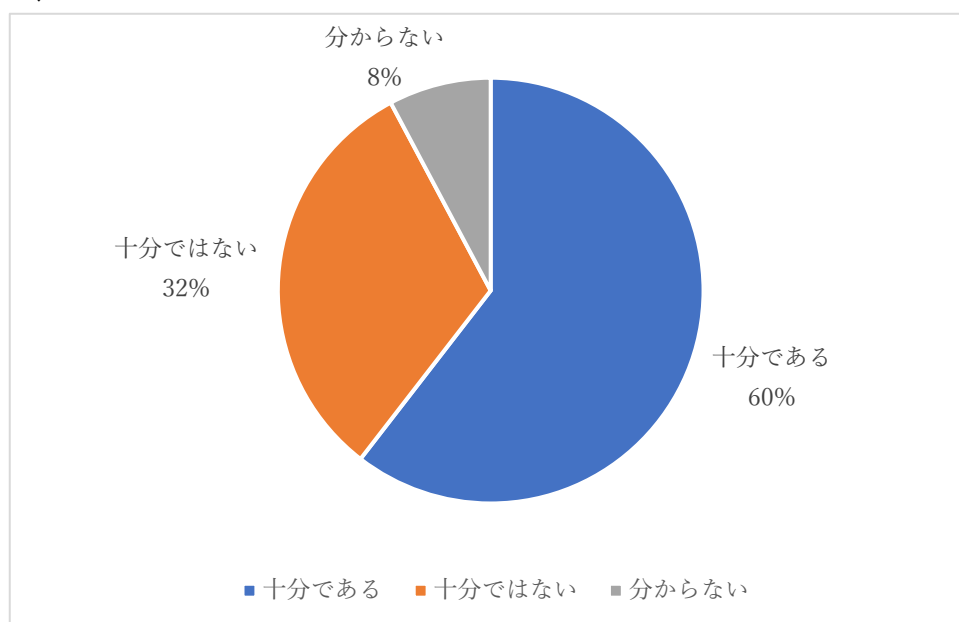
その他の回答

- ・大阪に移住したばかりで知らなかった
- ・申請をしたことがあり交付決定の通知を頂きましたが、他の補助金を受けられることになったため、取り下げさせて頂きました。
- ・近年コロナ禍で創立した団体のため
- ・2020、21、22年度茨木市の助成金をいただき、公演の実績ができ、そちらのイベントを開催していたため。
- ・助成対象事業を行なってこなかった

・ 本件が初のプロジェクト実施のため

52 人の助成金未申請者の理由を分析した結果、最も多い理由は「助成金制度を知らなかった」で、これが 51% を占めました。これは助成金の広報不足を示唆しています。その他の理由として、「申請要件を満たしていない」や「申請手続きが煩雑」との回答がありました。これらの結果から、助成金制度の情報提供の強化と手続きの簡素化が必要であることが示されています。

問4. 助成対象経費の項目は、より質の高い創作発表をするためのものになっていますか？ (n=167)



項目	十分である	十分ではない	分からない	合計
件数	101	53	13	167

60%の申請者が助成対象経費の項目が質の高い創作発表をするために十分であると回答しています。しかし、32%の申請者が助成対象経費の項目が十分ではないと感じているため、助成金制度や細かな項目の設計に対して調べる必要があります。また、8%の申請者がどちらとも言えないと回答していることから、助成金の有効活用方法について理解していない、または情報が不足している可能性があります。

問5. 助成対象経費にどのような項目があると、より質の高い創作発表が行えますか？

(自由記述／n=79)

	原文
1	webでの広報を前提としたWebサイト等のサイトやシステム制作費
2	芸術活動を続ける上で費用面での壁が高いため、作品制作にかかる費用や、制作に必要な道具の購入も助成対象経費になると、より高い創作、その発表に挑戦できると思います。
3	会場に設置する什器の資材や消耗品の購入費、展示作家への制作費、関係者の交通費など
4	作品の制作費や創作活動に関する助成
5	出演者報酬
6	出演料補助
7	出演料、企画制作スタッフ費
8	一般助成での出演料の助成
9	出演者の費用も控除対象希望いたします。
10	受付や運営スタッフへの報酬
11	出演料など公演制作に必要な経費をより広く認めていただけると助かります。
12	場所の選択も広がり、リハーサルなどが実施でき、時間が有意義に使える。
13	一般助成の場合、対象費用がかなり限定されているため、多様なプログラムを検討することが難しい。ゲストを呼ぶ費用とか他分野と共同する費用が対象経費として見込まれると、通常の公演とは飛び越えて取り組もうとする心意気に繋がるのではないかと思う。現在だと照明や音響や舞台など外部委託者に支払う形態のため、舞台であれば劇場型支援の側面が強い印象を受けている。
14	一般助成にも講師料、機材レンタル料などがあって欲しい。
15	リハーサル代、打ち合わせ費用などの項目があるといいと思いました。
16	出身劇団により出演料が違うため、一般助成も内容により出演料も助成していただけるとレビューショーを行う際に人数も増やして華やかに公演を行うことができます。
17	楽譜代や作曲料・編曲料などの項目があるとまだ知名度の低い新進気鋭の作曲家が取り上げやすく、より質の高い・幅広い創作発表と若手の作品披露の場が設けられると考える。
18	出演料 舞台監督費 稽古場使用料(外部施設を利用の場合) 著作権料
19	会場費や付帯設備費を助成していただけると大変助かります。スタッフ人件費があると十分な支払いが出来るので大きく助かる項目です。
20	現在で満足しています。

21	スタッフ人経費
22	作品発表のためのフィールドワーク等のリサーチ費用
23	演出や振り付けなどのクリエイト部分への助成があると嬉しい
24	人件費(出演料、舞台監督人件費、制作人件費)、作成業務に関する必要経費
25	出演者、参加者へのギャラ負担
26	脚本執筆料、脚本利用料
27	出演料、文芸費
28	文芸費、出演料が認められる
29	コロナ対策関係の消耗品/受付人員の人件費(コロナ対策のための増員もふくむ)/現在助成対象でない各スタッフ部門のプランニング経営
30	購入品の決済が現金以外での対応を可能にして頂きたいです。小道具や衣装の購入の際にクレジット決済が無効になると購入できるものが限られるため妥協せざるを得ません。時代はネット販売・キャッシュレスなのでどうかお願いします。
31	一般助成は講師料、交通費・宿泊費などが対象外のため、自由な企画が成立しにくい
32	公演に関わる傾稽古の稽古場費用と、公演に関わる切手代などの通信費が対象になると大変ありがたいです。
33	一般助成に、照明・音響・舞台装置プラン料を加えていただきたい。
34	出演料
35	舞台監督費、制作費
36	脚本使用料、演出料、出演料、稽古場代は公演する上で必要だと思えるのであれば良いなと思います。
37	稽古の費用が対象になると、質の高い稽古ができ創作発表の質もあがると思います。
38	芸術活動を続けるために、所属劇団員への出演料や運営スタッフとしての日当を認めていただきたい
39	企画するものに対しての助成です。
40	会議用会場費、HP・共有ストレージなどの利用費
41	ライブペインティングなど現代アートに対しての必要経費(絵具代等)
42	出演者のお弁当代
43	一般助成にも出演料を対象経費にして頂くとより質の高いものが出来ると思います。
44	稽古場代、ガソリン代、高速代、駐車場代、備品代
45	一般助成に作家を招聘するための交通費が含まれず特別助成に変更しました。これでは規模の小さな組織は遠方から作家を招くことができず、人々に未知なる文化や作品を展開するような企画を生み出すことは難しいかもしれません。
46	一般助成の方に撮影など記録費、配信用のWEBサービスの費用を追加して欲しい。継続的に利用できる機材などはレンタルではなく購入できるようにして欲しい。
47	特に今のままで大丈夫です。

48	スタッフの人件費、交通費、通信費
49	主催者の人件費、美術のアーティストの出展謝礼金や制作費
50	実施団体構成員の人件費
51	申請者自身や申請団体構成員への支払い。お互いの専門性やスキルを評価して団体化しているのにも関わらず、この制度だと外部に仕事を発注する義務があり、本末転倒感がある。とはいえ、その様な制度にすると際限がなくなる限界性も理解しつつ、大阪市が正当に判断できる金額基準があればいいのではないか。
52	通訳や翻訳者への謝金(海外作家などがより招聘しやすくなる)。クレジットカード支払い経費で助成金が使えなこと(クレジットカード支払い不可は非常に不便)。概算払いをおこなっていただけること(半分でも予め助成いただくと円滑に事業を回せる)。
53	受付や運営スタッフへの報酬
54	イベント保険
55	ダイレクトメールなどの通信費も助成対象にして欲しい
56	映像コンテンツ分野。漫才、大道芸等の分野
57	主催者の出演料の助成
58	現状のままで良いです
59	一般助成において、出演料が対象経費にあるといいと思います。
60	チケットの販売手数料、振り込み手数料も対象経費にして欲しい。
61	稽古料・稽古場使用料。稽古にかかる費用。質の高い演出を行うためには、公演のための別日リハーサルは必須である。
62	出演料や衣装費、舞台費を補う項目があると助かります。
63	稽古に関わる費用
64	プロデュース費(例えば外部の有カプロデューサーを招聘し、イベントの質の向上に繋げることができると思います)
65	稽古料・稽古使用料。稽古にかかる費用。質の高い演出を行うためには、公演のための別日リハーサルは必須である。
66	出演者へのお弁当代
67	広報のための発送にかかる郵送料や人件費など
68	事業申請団の経費が認められない。対象外経費にも記載できないのが残念です。
69	一般助成は特別出演の方々の謝礼や衣装代等の料金を少しでも助成していただくと助かります。
70	直接の人件費にあたらぬ、著作権使用料やピアノ調律費、記録費など
71	メインキャストの出演料
72	質の高い音楽を提供するために、出演料も対象経費に加えて頂きたい。企画内容もさらに充実させることができますと思います。

73	質が高いとは誰にとって質が高いかはわかりませんが、我々のとってセットにお金をかけられるのはすごく助かります。
74	舞台監督経費
75	社会教育施設や福祉施設で実施される NPO や個人の活動支援
76	大阪府外での活動も対象にしていただけると嬉しいです。
77	戯曲上演料、音楽使用料など、著作権費用は文化芸術の向上に掛かる重要なものであり、必要経費として認めていただきたい。
78	対象経費→施設運営にも助成金を出して欲しい。(会場費の件)
79	現状で十分です。

助成対象経費に追加してほしい項目についての質問に対する 79 件の回答を分析すると、概ね以下のように分類できます。

出演料/報酬関連：多くの回答者が出演料、出演者報酬、スタッフ報酬などの人件費に関する助成の必要性を感じています。

制作・運営経費：作品制作にかかる費用、稽古場使用料、リハーサル代、道具や消耗品の購入などの経費に対する助成の要望が見られました。

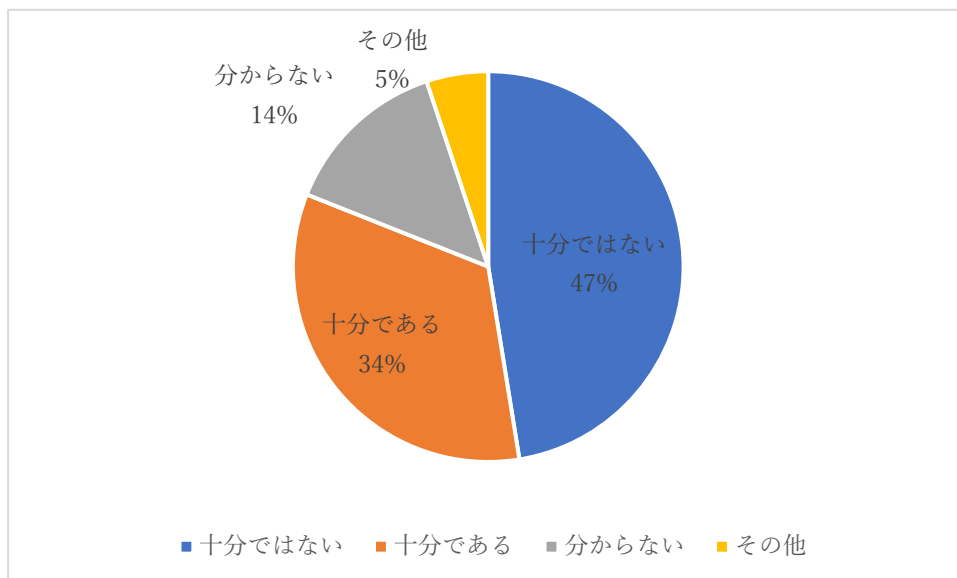
広報・通信費：Web サイトやシステムの制作費、通信費、郵送料などの広報活動に関する経費の助成を求める声がありました。

著作権・謝礼：楽譜代、作曲料、編曲料、戯曲上演料、音楽使用料などの著作権関連の費用や、ゲストや講師の謝礼に関する助成の要望が見られました。

その他：一部の回答者は現在の助成対象経費に満足していると回答していました。また、コロナ対策関連の経費や、クレジットカード支払い、機材購入などの要望もありました。

助成対象経費の項目に関して、多くの回答者が出演料や制作・運営経費などの追加を希望しています。これは、質の高い創作発表を行うための支援として、これらの経費が不可欠であると感じていることを示しており、助成制度の更なる改善や見直しが必要な状況であると推測されます。

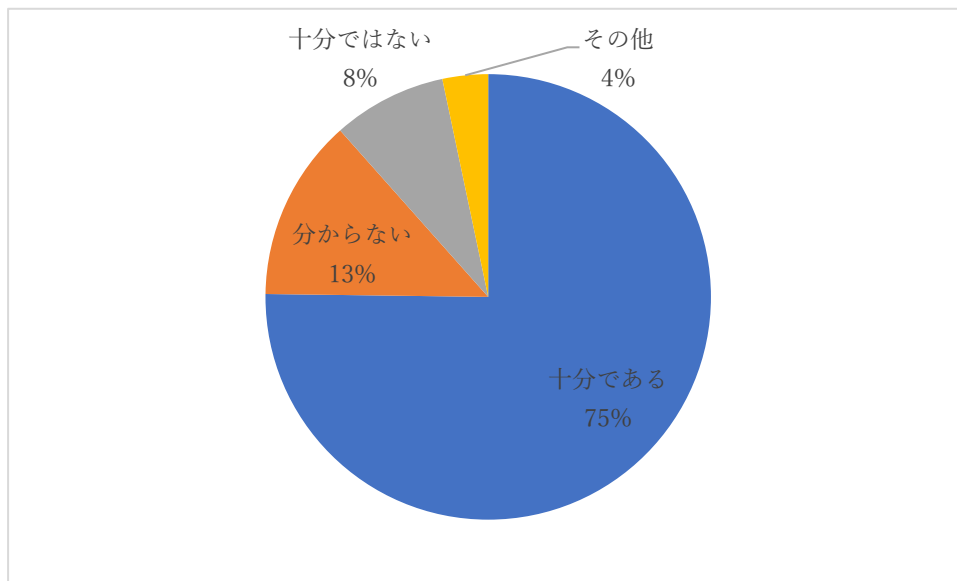
問6【一般助成】. 助成金の上限額が一般助成 20 万円であることはどう思いますか？ (n=137)



項目	十分である	十分ではない	分からない	その他	合計
件数	65	46	19	7	137

このアンケートの結果から、助成金の上限額に対する意見は比較的分かれていることがわかります。具体的には、「十分である」と回答した人は34%、一方で「十分ではない」と感じている人は47%です。この数値から、多くの方が助成金の上限額が低いと感じています。加えて、「分からない」と答えた人も14%おり、この問題に対する意見が確固としていない層も無視できない数値となっています。このアンケート結果は、助成金の上限額に対する総合的な満足度が必ずしも高くないことを示しており、改善の余地がある可能性を示唆しています。

問6【特別助成】. 助成金の上限額が特別助成 400 万円(今年度は 600 万円)であることはどう思いますか？(n=121)

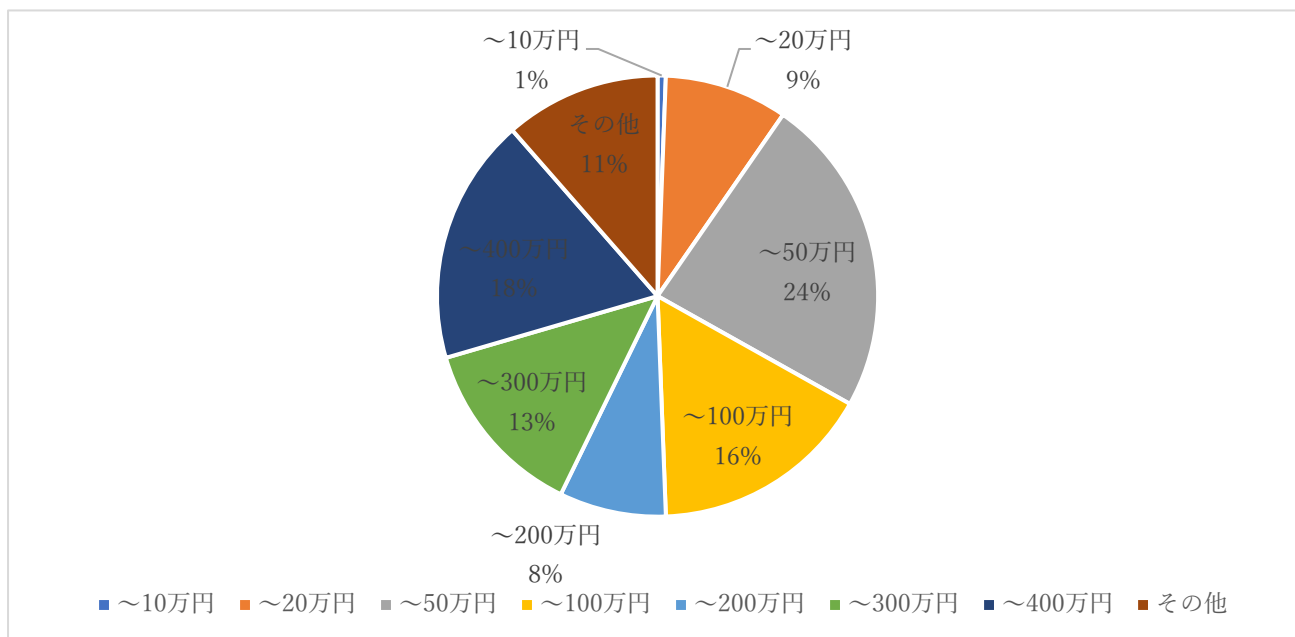


項目	十分である	十分ではない	分からない	その他	合計
件数	91	16	10	4	121

特別助成の上限額に対する満足度は非常に高いことがわかります。具体的には、「十分である」と回答した人が 91 人であり、全体の 75%を占めています。これに対し、「十分ではない」と回答した人は 10 人であり 8%と少なく、一般助成の上限額に対する回答とは明らかに傾向が異なっています。

この背景を考慮して、大阪における多様な文化・芸術活動の需要と実情を鑑みると、一般助成 20 万円の上限と特別助成 400 万円の上限の間に位置する新たな助成額の設定を検討することが、より多様な活動をサポートし、ニーズに応える方法として有効であると考えられます。

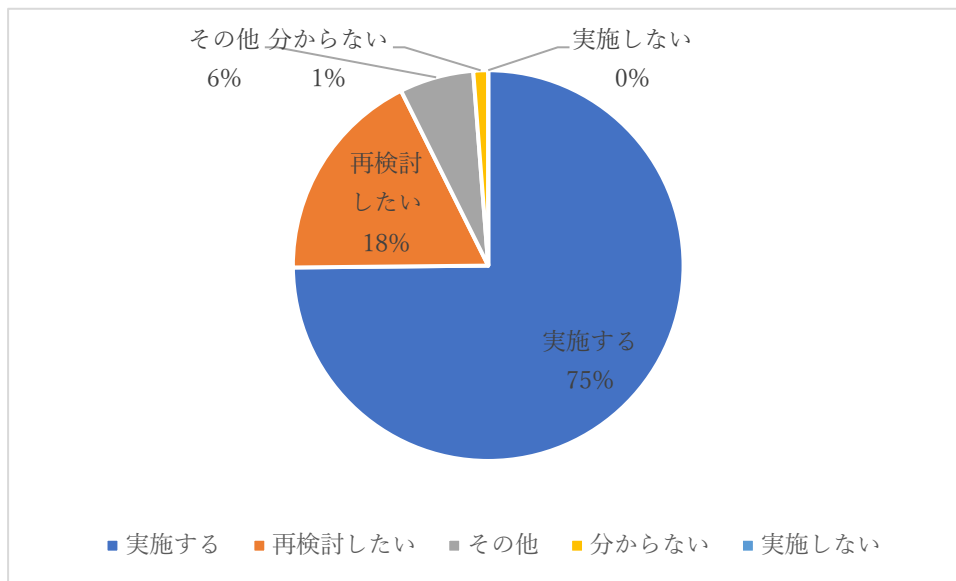
問7. あなたの活動に対し、どの助成金額が最も効果的と思われますか？(n=166)



項目	件数
~10万円	1
~20万円	15
~50万円	39
~100万円	27
~200万円	13
~300万円	22
~400万円	30
その他	19
合計	166

助成金額に関する意見は特定の金額に集中するのではなく、比較的分散していることが確認されました。このことから、助成を受ける活動の性質や規模、目的が多様であることが示唆されます。小さい団体が段階的に活動をステップアップさせ、大阪の文化芸術の支え手として成長していく現状を考えると、多様な活動に対応するためには、低額から高額まで幅広い金額の助成オプションを提供することが望ましいと考えられます。これにより、各活動家や団体が自身のニーズや活動の段階に合わせて最適な助成金額を選択することができ、より多くのプロジェクトや活動が実現可能となる可能性があります。

問8. 審査の結果、申請金額より減額されて採択される場合もありますが、その場合事業実施についてどう考えますか？(n=163)



項目	実施する	再検討したい	その他	分からない	実施しない	合計
件数	122	29	10	2	0	163

審査結果により申請金額が減額される場合の事業実施に対する意見を163人から収集し分析しました。その結果、75%の回答者が減額されても事業を実施すると答えています。一方、再検討したいと考える回答者は18%であり、減額による影響を検討し直す意向があることが分かります。驚くべきことに、実施しないと答えた回答者は0人でした。分からないと答えたのは1%で、その他の意見を持つ回答者は6%でした。これらの結果から、多くの申請者が助成金の減額に柔軟に対応し、事業の実施を前向きに考えていることが伺えます。

問9. 本助成金について意見がありましたら、ご自由に記入してください。

	原文
1	もっとオンラインなどへの対応など今後の社会を見据えた助成内容を考慮して欲しい
2	とても良い制度だと思います。もう少し制度を知る機会が多ければ更に良かったと思います。
3	対象項目が増えると助かります。
4	採択いただけると嬉しいです。よろしくお願いします。
5	アーティストの制作活動に関する助成(作品の試作や実験に必要な費用等)も提案して頂きたい。
6	助成していただけるのはとてもありがたいです。
7	一般助成でも出演料他スタッフ等の経費が認められるとありがたい。
8	助成金により、公演の実施にあたり経済的な負担が減り、より公演実施や内容の充実に注力することができます。一般と特別の間の中規模事業に合うような助成枠があるとより申請しやすい様に思います。
9	伝統芸能をこれからも支援していきたいので、引き続き助成制度よろしくお願い致します。
10	個人で活動する落語家にはとても助かる助成金ですので、今後も続けていただきたい制度です。
11	大阪の豊かな文化の発信に向けて、大変助かっています。前回今回と一般助成ですが、そのうち特別助成が申請できるような企画を行いたいと思います。
12	支援メニューを考える側のことを思うと難しいなど 思うが、古典芸能の実演家側に立つとおそらく申請できるのは一般助成である。特別助成は過去の採択事例などを見ると事務会計組織を持つ法人・団体が採択されているため、能楽公演は主催者が赤字負担で実施していることが多く、今回申請している当団体においても同じくである。公演形式で実施する際は、支出のほとんどが団体員以外への出演料であるため、若手実演家が主催する企画はワークショップ形式が多く、金銭的負担が大きい本格的な能公演はなかなか企画されないのが現状である。おそらく、支援側の意図があり対象経費を限定されているとおもうのと、限定された項目でも支援いただけるのはありがたいので強くは言わないが、若手のことを思うと外部への支払う出演料をせめて対象経費にできると20代30代の実演家が申請しやすくなるのではないかとおもいます。
13	大阪がどの様な芸術を求めているか知るきっかけとなりそうです。今回採択されたら、主に学生や音楽などの専門学校に対して、実際に活動しているアーティストと橋渡し出来る様なイベントも今後考えたいと思いました。

14	一般助成の内容によりもう少し助成金額を上げていただけると、華やかに自己負担を下げて不安なく公演することができます。世の中なんでも買うにしても金額が以前よりも高くなっているのに、クオリティーを上げるには厳しい世の中になっているように思います。
15	前期後期だけでなく年3回あるといいなと思います
16	申請書にも記述したが、チケット代金を高く設定できない事業の場合、収入金額自体が高く見込めず、高い芸術性や技術を必要とする舞台作品でも必要な助成金を受けることができない。市民に貴重な税金を受けての事業ではあるが、文化芸術の有用性を考え、きちんと実施された公演に関しては実施報告の方法をもっと簡単にしたい。
17	少額でも助成していただけると、運営する身としては大変ありがたく思います。音楽の活動のうち、特に合唱の分野においては著しく活動の停止・縮小を余儀なくされました。国によるマスク着用の方針の影響も大きく受けます。人々が集まって歌うことは、老若男女問わず、心身の健康に大いに役立つ活動だと思います、どうか、少人数の小さな音楽団体にも助成していただきますと幸いです。
18	2020年度の100パーセントかつ年2回の申請が出来たのはコロナ禍でお金がなかったのととても助かりました。
19	京都拠点に活動をしておりますが、大阪の文化資源を活用した公演をたくさん行いたいと思っていますので本補助金は大変価値のあるものでした。次回は金額の大きな補助金に挑戦したいとおもいます。
20	不明瞭な点など、丁寧に相談出来ることや、観劇頂けることはとてもありがたいと思います。申請書類に関して、Macだとチェックボックスが入力できないなどは改善して頂きたいとおもいます。助成があるから成り立つものも多いですが、一般助成と特別助成の幅が大きく、現場の実情の合う助成にさせていただけるとありがたい。
21	無理と承知の上ですが、一番お金がかかってしまうのが稽古場代なので、それも経費に含めることができればありがたいなと思います。
22	申請書類の見本や申請用のページの内容がわかりやすく、事務作業が不慣れな私でも提出することができ、非常に助かりました。強いて言えば、対象経費の詳細を各ジャンルでももう少し詳しく書いていただけるとわかりやすいと思いました
23	小規模の劇団の方が資金繰りが難しいので、もっと助成の基準を見直して頂きたいです。小規模だからこそできるやり方で、芝居を盛り上げていきたいです。
24	活動するにあたり大変助かっております。
25	どうか、クレジットカードでの購入、支払いを対象にして頂きたいです。そのため計上できない小道具や衣装等がたくさんあります。
26	提出した予算額より、減額分、予算を縮小する努力をしてもいいのか確認したい

27	いつもありがとうございます。大阪市の文化のために今後も頑張りたいとおもいます。
28	落選の場合に、理由がわかれば今後の参考のためにありがたいです。
29	大阪市での芸術活動を応援してくださる本助成金の実施は大変ありがたいです。今後も継続して実施してくださることを希望します
30	企画する人に対して助成してもらえるものがあるといいなとおもいます。
31	大阪での演劇文化の発展を心から願っています。個人の力ではどうにもできないので行政の方のサポートがもっと広くかつ手軽になることを願っています。
32	本助成金は素晴らしい内容かと存じます。助成の採択に関わらず、大阪の文化芸術の隆盛と次世代へと繋がる成長、発展のため尽くして参ります。
33	是非、我が団体を支援お願いします。
34	情報をもっと広く周知してほしい。
35	告知をして欲しい。
36	よろしくお願いします。
37	文化庁より過去に頂いた助成金も含めて、現状の芸術活動に対してのサポート・ご助力に感謝しております。
38	主催による費用立替負担軽減のため、交付決定後に前払い制度があると非常にありがたいと思います。
39	実施事業において助成金を利用することで、事業者が利益を出せない仕組みというのは今後このような文化事業を興したい人間を生み出す上で障害になるのではと思います。不正な利益を防ぐのに制限をかけるのは必要だと思いますが、多少の利益がない限り、時間と労力をかけて文化醸成・発表の場を生み出そうという人が続けられないように感じます。
40	助成金が半減しても同内容の事業実施というのは、現場としては難しいです。事業趣旨は変わりませんが、スケールが小さくなることは、やむを得ないように思います。
41	このような機会を与えていただきありがとうございます。参加作家たちと日々意見交換し、素晴らしい空間を作る準備を進めています。助成を受けることが叶いましたら本当に助かります。よろしくお願いします。

42	アーカイブ助成の趣旨がよくわかりません。アーカイブはどこで見れるのか示して欲しいです。一般助成にアーカイブを目的とした費用を別途追加申請（10万円ほど）できるようにしてほしい。たとえばYoutube やサイトに記録動画やレポート動画を残す場合の撮影や編集を、外部に発注するようによきことで、当事者の負担を減らし次の集客や宣伝につながるようにしたい。内容が決まっいてわかりやすい公演や展示だけでなく、プロジェクト型取り組みへの採択を増やすなど、実施後は何か残る活動も評価していただきたいです。評価の加点・減点がわかりやすくして欲しいです。例えば演劇や音楽の公演が有料開催の場合、チケットを購入した市民だけが見れるのではなく、本編の配信やアーカイブ公開がある場合は加点など。
43	社会から疎外感を感じながら多様な方々が、大阪市からの助成金によるアート活動を届けることに対し、行政から目を向けてもらっていると感じて喜ばれています。
44	弊社のイベントは7月開催なので4月の交付決定だと残り3ヶ月しか準備期間がなく、スケジュール的に厳しい状況です。申請の時期や交付決定を半年くらい前倒しにすることはできないでしょうか？
45	対象経費の項目が舞台公演を想定したような費用に偏っている印象を受け、アートプロジェクトなど多様な活動の中での費用計上が難しい印象を受けた。また、アートプロジェクトの場合、リサーチ期間など、実施事業の本番以外のプロセスも重要であり、計画書にある「公演期間/搬入設営/リハーサル（ゲネプロ）/搬出撤去」等の日程設定は申請段階では難しいように思う。また、対象経費の4分の3助成や自己負担金が必要である条件は、まだ価値が定まっいていないような実験的な活動などの申請が難しく、そのような活動への助成も今後検討して欲しい。
46	特別助成の場合、概算払いや、助成額の半分を予め助成いただけると事業をより円滑に進めることが可能です。予め助成金があることで、事業をより余裕を持って実現することが可能です。
47	障がい者の方の割引などが主催者の金銭的負担になり設定しにくい状況になっています。
48	申請書がもう少しわかりやすいと嬉しい。
49	貴重な機会をいただきありがとうございます。
50	任意団体のメンバー個人宅を事務局にしているため、事務局の所在地に関わらず申請できる点が素晴らしいと思います。
51	要項やHP が二重に掲載されたり、対象経費等の品目など非常にわかりにくい。
52	こういう助成金制度をもっと活用して、未知の古典芸能の復曲をしたいと思っいます。
53	公演の開催は、集客の状況によっては赤字になることもあり、ある意味賭けの部分があるが、このような助成金があると安心して活動ができ、予算を使ってよりよいものを提供できるので、今後も続けていきたいです。

54	コロナ禍で能舞台も拝借する上で、クラスターを出さないように半数にしたりと経費が回収できない公演をしているので、少しでも助成金があれば、能役者個人の持ち出しを少なくできて嬉しいです。
55	手厚い助成金だと思います。大阪の文化力に還元できるように、心を込めて活動いたします。
56	大変ありがたい助成金ですので、大阪での芸術振興のため、継続いただきたいです。
57	赤字を覚悟でプロジェクトを実施・スタートをする中で、助成等の制度がないかとネットを検索している中で本助成金の存在を知ることができました。もっとより多くの芸術家にも知れ渡るような発信（SNS等）があると、より拡大していくと思われます。
58	純粋な想いで芸術を創作し、世の中の役に立ちたいと考える人にとっては、大変ありがたい制度だと思います。しかし、自己負担＝赤字に対する助成であるならば、助成率を50%や75%ではなく100%に引き上げて頂かない限り赤字はまのがれず、長い期間、継続して創作は続けられなくなると思います。
59	東京都杉並区在住のため、杉並区の文化助成を毎年受けて音楽会や個展などを開催しています。杉並区の助成金は杉並区在住、もしくは団体や会社が杉並区に所在していないと助成申請ができません。しかし、大阪市の本助成は大阪市在住ではなくても対象となるため、素晴らしいと思いました。本来、街のPRは在住者でなくても在住者や地元店舗、企業とのコラボレーション等で行なっても有意義な会を開催することは可能だと思うので、大阪市の本助成のような素晴らしい助成制度が全国に広がれば良いと思いました。
60	手厚い助成金だと思います。大阪の文化力に還元できるように、心を込めて活動いたします。
61	特別助成の拡充や一般助成の採択件数などは事業者としては感謝しております。今後どうぞよろしくお願いいたします。
62	一般助成に加え、特別助成の枠組みを作っていただいたことで芸術活動の可能性が広がると感じています。個人の資金力では難しいアイデアを形にすることができ、文化向上に貢献できると感じています。助成金を活用して大阪市から芸術活動を発信することは、大変意義のある取り組みだと感じています。

63	<p>コロナ禍などの影響により社会全体の経済規模が縮小し、市民が文化的な活動に使う予算が低くなっているこの状況で、歯を食いしばって必死に活動しているアーティストやクリエイターなどはたくさんいます。予算的な問題で文化的な活動が縮小されてしまっている中、助成金という制度は非常に心強く、申請段階でしっかりとした事業を企画していくことは申請者が自分自身の活動を見つめ直す良い機会でもあり、より質の良いものを作り上げることにも繋がっていくと感じています。今後も行政からのできるだけ幅広い視野でのバックアップと、双方のディスカッション等を通じて市民への文化サービスの充実をより深めていけるような制度として続けて行なって欲しい。</p>
64	<p>団体構成員でもアーティストとして出演する場合は、その出演費を助成対象として見て欲しい。助成金が大きいのので概算払いのシステムがあるとありがたいです。</p>
65	<p>クラシック音楽においては、オーケストラには文化庁を通じた多額の補助金があり、逆に国からの多くの助成金は小規模のプロフェッショナルな団体は対象外となる場合が多い。そのため地方行政からこうした助成金が出される場合、より小規模な事業もこぼすところなく、手がさしのべられることを願います。直近10年を見てもオーケストラに多額の税金が注ぎ込まれているにも関わらず、いまだに自立できないということは、彼らは何かやり方を変えなければならないと思います。クラシックの中でも目先の課題がある、より自立した若手の人材育成、新規顧客の創出といった、より長期的なビジョンを持った事業を展開することが、より大阪を始めとした、文化の力での経済効果を発揮できるのではないかと思います。</p>
66	<p>コロナ禍においても参加者からの欲求は高く、安全対策のため参加者数を絞ってでもここまで続けてこられたのも、この助成あってのことだと感謝しております。全国のお他団体が行っていないこのワークショップを市民の皆さんや遠方からご参加の皆さんへ今後とも提供できるよう精進して参りたいと考えております。</p>
67	<p>今後も大きな金額の助成があるとありがたいです。</p>
68	<p>文化活動にとって大変意義のある助成金だと思いますので、継続的に実施していただけたら幸いです。</p>
69	<p>問8について、経費を見直して実施できるようにすることをご相談できるのか知りたいです。</p>
70	<p>助成があることにより、大阪を意識しながらより思い切った試みへの意欲をもって事業計画を検討することができます。</p>
71	<p>こちらの助成金を受けられた舞台を拝見し、その会場でこの助成金のチラシを見て初めて知りました。この様な助成制度はありがたいと思います。</p>
72	<p>このような助成金を設けていただき感謝しています。継続していくための収入増に向け、努力はしていますが、市から助成いただき助かると同時に応援して下さる姿勢に励まされております。</p>

73	対象となる経費の範囲がもう少し広がるとありがたいです。
74	私達は助成金が下りなくても公演を実施します。お客様が待ってくださるお客様にも東京公演での反応もすごく良いです、何かしらの賞をとって300人のお客様に見てもらっている演劇とショウアップされた作品’で’1000人に喜ばれている演劇とどちらが「質が高い」のでしょうか？質が高いとは誰が決めているのでしょうか？お客様が見たいと思っていることが新たな大阪の文化として全国区になりうる可能性を秘めているかもしれません。そんな劇団さんにも予算がつくと嬉しいです。
75	郵送オンリーではなく、電子申請できるようになると便利
76	他府県が居住地でも助成対象としていただけることが幸いです。今後も大阪の支援に努めたいと思います。
77	いつもお世話になっております。伝統文化を守るためにご協力いただき感謝しております。
78	助成金の額を増やして欲しい。万博とタイアップして欲しい。様々な分野など厚みのある活動が出来るので、大阪文化向上支援か多様な人々が参加できる芸術活動両方に当てはまるので判断が難しかった。
79	コロナ発生前には3年続けて助成いただきましたおかげで長期間にわたる壮大な計画が順調にすすんでおりました。芸術の中でもコロナにより1番の痛手を受けたのは我々合唱団でした。活動を中止でざるを得ない時期もありましたが、歌える日常が壊されたことによって改めて歌うことに人間らしい生き甲斐を感じた団員があつまり活動を再開し、公演の延期は余儀なくされたもののコロナに負けず着実に計画を進めてまいりました。政府もマスクの着用について新たな指針を示しマスクを外す方向に切り替わっていくタイミングで合唱活動における感染拡大の警戒も解いていただけますことを期待しております。(コロナ発生以降は換気を徹底してマスク着用で練習しており、練習時も本番も団内および出演者内での感染者は1人も出しておりません)
80	大変ありがたいことです。大阪市に還元できるイベントにさせたいとおもいます。

本助成金に対する意見（自由記述）の80件の回答を分析すると、概ね以下のように分類できます。

肯定的なフィードバック： 本助成制度に対する感謝や継続して使用する意思表示。

建設的な批評： 制度改善のための具体的な提案について。

助成額の要望： 助成金の額、頻度、または配分に関する意見や要望。

対象条件： 申請資格や対象となる経費についての意見や要望。

申請に関する意見： 申請プロセスや報告要件などに関する意見や要望。

文化・芸術の範囲： 助成が焦点を当てるべき芸術や文化について。

コロナの影響： 新型コロナウイルス感染症による芸術・文化活動への影響について

技術的な問題： 申請フォームやオンラインシステムに関連する技術的な側面について。

一般的な疑問： 本助成制度についての質問。

その他： 上記のカテゴリに当てはまらないその他の意見や要望。

多くの回答者が助成制度に対して基本的に肯定的な意見を持っていることが確認できます。特に「肯定的なフィードバック」が17件と最も多く、助成制度が一般的には役立っていると感じられていることがわかります。これは、制度の基本的な方針や運用が効果的であるという強い指標と言えるでしょう。

一方で、制度の改善に関する意見や要望がそれぞれ少数ですが存在しており、制度はまだ改善すべき点があるという印象もあります。特に「追加対象提案」があることは、助成制度が現在のところカバーしていない領域やニーズが存在する可能性を示唆しています。

「その他」カテゴリの存在は興味深い点で、特定の改善点や評価を述べずに中立的な意見を持つ人々もいることを示しています。これは、助成制度に対する意見や期待値が多様であること、または制度に対して特に強い意見を持っていない人々もいるということを示している可能性があります。

以上の点を考慮すると、助成制度は全体的には成功しているものの、改善と拡大の余地が確かに存在していると言えます。

総括

コロナ後の文化芸術活動に対しても未知数と不確定要素が多く、その状況が長期化することが予想される中で、本助成金の重要性が一層強調される結果となりました。このような不確定な状況下での助成は、文化芸術関係者にとって非常に大きな安定要素となる可能性があります。

文化芸術活動を行う個人や団体からの視点、税金を投入する大阪市文化課からの視点、そして採択審査や効果検証を担当する大阪アーツカウンシルからの視点と、本助成金には多様なステークホルダーが存在します。それぞれの立場から見た助成金の価値は一様ではないかもしれませんが、しかし、その多様性を尊重しながらも、全ての関係者が共有する目的は「文化芸術の振興と発展」です。

この共通の目的を達成するためには、大阪市文化課と大阪アーツカウンシルが協力して、各ステークホルダーのニーズと期待に応える助成制度を設計し、それを効果的に運用する必要があります。そのためには、今後も継続的な協議と調整が必要となると考えています。

コロナが終息し、新常态が確立されつつある今、更にその先の未知なる状況に備え、助成金制度は柔軟かつ効果的なものでなければなりません。その上で、助成金はただの経済的支援手段ではなく、大阪市とその文化芸術関係者が共に目指す「文化都市大阪」の実現に資するものとして位置づけられるべきです。そして、その全ては税金によって支えられているため、その用途と効果についての説明責任をしっかりと果たす必要があります。

これからも、大阪アーツカウンシルは大阪の文化芸術関係者と大阪市文化課と連携を深め、より良い制度設計を目指して努力を続ける所存です。これによって、大阪の持続可能で魅力的な文化芸術都市としての地位を確立し、多様な文化芸術活動が根付く土壌を築いていくことを期待します。

大阪市芸術活動振興事業助成金 アンケート

平素より大阪市文化行政にご協力賜りありがとうございます。

今後の助成金事業の参考とさせていただきますので、ご協力をお願い致します。

※アンケートの回答については、助成金の審査には一切関係ありません。

問1. 今回応募する芸術活動の分野は何ですか？

音楽（邦楽・洋楽） 演劇（洋舞・邦舞） 舞踊 古典芸能・大衆芸能 美術等 映画

問2. 今までに助成金に申請したことはありますか？

申請したことがある（問4へ） 申請したことはない（問3へ）

問3. 今まで申請しなかったのは何故ですか？

申請要件を満たしていなかったため

助成金申請をしなくても事業が実施できた

他の補助金を受けていたため申請できなかった

申請手続きが煩雑で面倒なため

助成金制度を知らなかった

その他（ ）

問4. 助成対象経費の項目は、より質の高い創作発表をするためのものになっていますか？

十分である（問6へ）

十分ではない（問5へ）

分からない（問5へ）

問5. 助成対象経費にどのような項目があると、より質の高い創作発表が行えますか？

(自由記述：)

問6. 助成金の上限額が一般助成 20 万円、特別助成 400 万円（今年度は 600 万円）であることはどう
思いますか？

【一般助成】

十分である 十分ではない 分からない

その他 ()

【特別助成】

十分である 十分ではない 分からない

その他 ()

問7. あなたの活動に対し、どの助成金額が最も効果的と思われますか？

～10 万円 ～20 万円 ～50 万円 ～100 万円 ～200 万円

～300 万円 ～400 万円 その他 ()

問8. 審査の結果、申請金額より減額されて採択される場合もありますが、その場合事業実施について
どう考えますか？

(例えば申請金額の半額に減額されて採択された場合)

実施するので交付してほしい 実施できるかどうかを含めて再検討したい 実施しない

分からない その他 ()

問9. 本助成金ついて意見がありましたら、ご自由に記入してください。

()

アンケートにご協力ありがとうございました。